

カトリック六甲教会 教会報

2007

8

No.428

暑中お見舞い申し上げます

8月の予定

		教会暦	教会行事
1	水	聖アルフォンソ(リゴリ)司教教会博士	
3	金		初金 7:00 10:00 ミサ
4	土	聖ヨハネ・マリア・ピアンネ司祭	
5	日	年間第18主日	
6	月	主の変容 日本カトリック平和旬間 (~8/15)	10:00 集会祭儀(平和の集い)
8	水	聖ドミニコ司祭	
9	木		教会学校キャンプ (~8/12)
10	金	聖ラウレンチオ助祭殉教者	10:00 祈りの道場 (15:00 ミサ)
11	土	聖クララおとめ	
12	日	年間第19主日	13:30 平和旬間の合同礼拝
14	火	聖マキシミアノ・マリア・コルベ司祭殉教者	
15	水	聖母の被昇天(祭日)	7:00 10:00 ミサ
18	土		17:00 ミサ (19時ミサはありません) 18:00 納涼の夕べ
19	日	年間第20主日	
20	月	聖ベルナルド修道院長教会博士	
21	火	聖ピオ十世教皇	
22	水	天の元后聖マリア	中高生キャンプ (~8/25)
24	金	聖バルトロマイ使徒	
25	土		8:00~ 聖書朗読リレー 青年会キャンプ
26	日	年間第21主日	
27	月	聖モニカ	
28	火	聖アウグスチヌス司教教会博士	
29	水	洗礼者聖ヨハネの殉教	

(注) 8月中の日曜日のミサは、7:00と10:00の2回となります。

バカンス

今年も8月がめぐってきました。平和旬間をむかえ、心静かに神に祈りを捧げたいと思います。

そして8月の喜びの声が聞こえます。きっと子どもたちにとっては喜びの季節です。そして両親にとっては子どもと共に一日中過ご

して大変忙しい季節でしょう。子どもの時の夏の思い出は、今でもとても懐かしいです。夏の間、別に旅行したわけではないのですが、近くの公園や海辺で兄弟と一緒に遊んだり、ピクニックをしたことは、楽しい思い出として残っています。

やはり、夏の休みとして、人と共に過ごすのは、とても大事なことだと思います。旅行ができなくても、家族と一緒にゆっくり過ごすのは人間にとって大切です。現代の忙しい生活の中で、家族揃ってゆったりと過ごすことは余りないと思います。だからこのような夏休みを利用して、家族が共に遊んだり、話をしたりするのは、昔よりもはるかに大事なことだと思います。以前はお盆になって、皆が故郷に帰ってきて、親戚で過ごすこともあったのですが、今はそのことさえも少なくなってきたように思います。是非、今年こそ家族のために時間を作って、楽しく過ごすようにしましょう。これこそ主のみ心にかなうことです。

また夏休みは、教会の行事としても、人と共に過ごす機会が沢山あります。教会学校や中高生会、青年会のキャンプや「納涼の夕べ」

があります。家族以外の人と楽しく過ごすことも大切な時間です。特に共同体の人と共に、子ども達にとっては友達と一緒に祈ったり、イエス様の話を聞いたり、また共に食べたり遊んだりするのは、子ども達の信じる心を強めるために大切なことです。もちろん、夏休みだからといって教会を休んでもいいのではありません。日曜日ごとに共同体として集まってミサを共に奉げるのは、大切な分かち合いです。同じ信じる心を持っている兄弟姉妹と共に集まって祈ることは、心を成長させるいい機会となります。

夏休みは、体の成長だけではなく、心が成長をするには素晴らしい機会です。気候的に暑くなってきて、あまり活動する気持ちがなくないかもしれませんが、丁度祈るために時間を割くと、心の夏バテを防ぐことができます。だから、夏で暑くて、体を動かすことができないなら、静かな時間を主と共に過ごしましょう。実りある時間となり、私たちにとって大変役に立つことでしょう。

どうか皆さん、今年こそ有意義な8月を過ごしていきましょう。

(ジョン・オマリー神父)

各 部 会 だ よ り

👩 婦人会

7/15(日) 9:00のミサ後、婦人会と壮年会の合同例会が行われました。約50名強の方々の参加がありました。

吉村先生の講演はこれからの教会発展に繋ぐ事のできるお話でした。婦人会・壮年会で同じお話を聞くことにより今後、共通理解を深める上で、大変役に立つのではないかと感じました。

11時のミサと重なり参加できなかった方に、心よりお詫び申し上げます。

8/18(土) 『納涼の夕べ』が行われます。楽しめる催し物、模擬店があります。ご家族・お友達・ご近所の方々お誘いの上、ご参加下さい。

婦人会のお手伝いは『西1・2・3』です。

後日、ご連絡いたしますので宜しくお願い致します。

【予定】

8/3(金) 初金 ミサ 10:00

8/15(水) 聖母の被昇天 ミサ 10:00

8/18(土) ミサ 17:00

納涼の夕べ 18:00~20:00(予定)

お手伝い 西1・2・3

【聖堂当番表】

8/3(金) 西5 中1・2

8/12(日) ミサ後 6班

8/17(金) 中3・4・5・

8/24(金) 午後 1班

☞三日月会

<例会> 例会は休会致します。
<三日月会 喫茶>
8月5日(日) 10時ミサ後～12時
イグナチオホールにて

☞教会学校

8月9日(木)～12日(日)
教会学校キャンプ
テーマは「みんなでキャンプ みんなのキャン
プ」です。実り多いキャンプが無事におわりま
すようにお祈り下さい。

☞社会活動部

社会活動部連絡会は8月はお休みです。
9/14(金)10:00 社会活動部連絡会
各ボランティアグループの責任者の方はご参
加をお願いします。

☞広報部

教会のホームページから過去の教会報を、見るこ
とが出来ようになりました。期間は2002年7月
号からです。内容は教会カレンダー、主任司祭よ
り(巻頭言)や特集です。
又、2005年5月からは教会報全ページを見ること
が出来ます。トップページの「教会報バックナン
バー 2002/07～」から入ってください。

お知らせ 司祭の夏の予定など

主任司祭より

(1) コリンズ神父は8月1日(水)～9月13日(木)まで休暇のためアメリカに帰国されますが、9月16日(日)から、またお元気に主日ミサに来て下さる予定です。

(2) 安芸神父はシスター方の黙想指導のため、8月16日(木)～28日(火)まで不在となります。

(3) 桜井神父が一番若いので、今夏は「教会学校キャンプ(姫路で9日～12日)」と「中高生会キャンプ(奈良で22日～25日)」の両方に出かけます。なお、8月27日(月)～9月4日(火)まで「年の黙想」に入りますが、教会3階で留守番をしながら沈黙のうちに祈る予定です(泥棒が入っても沈黙?)。

うれしいお知らせとして、

(4) バンバン神父が8月7日～10日に若者への司祭召命促進の仕事で来神中に、2度ほど教会にも顔を出し、私たちとの交わりを持って下さいます。養成部からのお知らせに注目しましょ
う。

(5) ホアン・マシア神父(スペイン出身のイエズス会員で元・上智大学神学部教授。専門は倫理神学)が来月9月からザビエル・ハウスに居住し、主として来年度から聖トマス大学などで教鞭を取る傍ら、ミサや研究会・講話など幅広く教会のために奉仕して下さいます。しばらくマドリードの大学で教えておられましたが、今春日本に戻られたお元気な神父です。詳しくはおってお知らせします。

<お 知 ら せ>

【社会活動部より】

手芸の集い

炊き出し

手作りコーナー

8月はお休みです。9月より再開致します。ご協力お願いいたします。

8/23(金) 14:00～ おにぎり作り(イグナチオお台所)

須磨方面夜回り支援

【養成部より】

平和旬間主題「神に逆らう者、悪を行う者と共にわたしを引いて行かないで下さい。彼等は仲間に向かって平和を口にしますが、心に悪意を抱いています。(詩28:3)」

バンバン神父様が2回もプログラムを持って下さるお知らせは、暑さも忘れる喜びと思います。

8月7日 13:00～ 於：第1 & 第2会議室

テーマ 「キリストの悩みはなんですか」

指導 バンバン神父

対象 暑いさなかですが、一緒に考え、学びたいと思われる方はどなたでもご参加下さい。

8月10日 10:00～15:00 15:00からミサ 於：六甲教会大聖堂

テーマ 「神のために泣きましょう」

指導 バンバン神父

対象 祈りの道場の関連プログラムですから、沢山の方の参加をお待ちします。昼食の準備もありますので、申し込みが必要となります。

* 日本の社会にあっては、キリスト者はほんの少数の異教徒の群れです。少数であっても主の声は迫ります。「私の働き人はお前だ」と。ご先祖様の宗教から離れてイエス様に従った日本のキリスト者は、イスラム社会から主の呼びかけに応えたバンバン神父様に多くのものが学べると思います。

8月12日 平和旬間合同礼拝 13:30～ 於：六甲教会大聖堂

説教 聖公会 聖ペテロ教会 信岡章人司祭

8月25日 聖書朗読リレー 8:00～18:00頃 於：小聖堂

60名の朗読者をお待ちしています。

「うみのほし」訪問記（6月24日）

6月24日(日)、私たち六甲教会混声合唱団は特別養護老人ホーム「うみのほし」に伺いました。

「うみのほし」には、現在、介護度3以上の方、約77名が暮らしておられます。人の機能は年齢と共に日々低下していきます。仕方のないことです。笑う事、楽しめる事、心動かされる事でQOL(生活の質)が高められ、身体はどこかを活性化できるのではないかと、職員の方々は日々様々な心配りをなさいます。

私たちにも、そのお手伝いの一部ができる事を願いながらの訪問です。タイトルは「鶴の恩返し」。このお話を歌と朗読で準備いたしました。朗読をしてくださる本田さんは、聞き取れる音域の狭くなったお年寄りにも聴いていただきやすい声の方です。歌は誰でも歌った事のある歌を少しだけ物語に合わせて言葉を置き換えたりして選びました。

何よりもメンバーの方々は優しく、心温かいサービス精神いっぱいの笑顔で語りかけるように一生懸命歌ってくださいました。

何時もじっとしていて時々「アー」と声を出される方はずっと「アー」と声を出し放しでした。きっと歌っておられたのでしょうか。ストレッチャーで横になっておられる方も目をしっかりと開けて身体中で聴いてくださっているのが分りました。皆さんから伝わってきた温かなほんわかとした空気は、私たちもほんわかとさせてくれました。皆さんのご健康とお幸せを心よりお祈りしながら「うみのほし」を後にしました。

皆さん、お元気で。来年、また行きます（十河）

<後日談> おみやげに持参した白いアジサイが大人気で、皆さんで立ち止まって愛でてくださっているそうです。また体調を悪くしてホールに出てこられなかった方が、ホールに出てきて歌ってくださるようになったそうです。



典礼奉仕者の勉強会に参加して（6月30日）

『私達が典礼を良くするためにどのようにご奉仕するか？』

オマリー神父様の「ミサ典礼は主の御業^{みわざ}であり、主に協力して私達の信じる心の成長を目指していくものであるから何にも増して大切なものである」というお話がありました。

毎日曜日の習慣の様にミサに預かり、ともすれば義務を果たしているという感覚を持ちがちになりますが、時にミサに預かる喜びと感激を味わう事があります。そのようなミサがどんなであったかを思い起こすと参加している人たちが神様に向かって一致していたのではないかと思います。神様に向かって一致する事は現実にはとても難しい事です。その為に私達は様々な約束事を決め、守り、前もって十分準備するのは当然のことでしょう。

今回集まったのは先唱から案内係まで典礼奉仕をしていると思われる方々です。でも初めに読まれたコリント1(12章12~26)にあるように「ひとつの体の一部分」として私達信徒全員がそれぞれの立場での役目を考えて主と共に働き主と共に実りを味わおうではありませんか。（折川）

壮年会、婦人会合同例会（7月15日）

心配された台風も阪神間は大事無く過ぎ去ってくれて日曜日は青空もある良いお天気になりました。初めての試みの婦人会と壮年会との合同例会でしたが、参加者は婦人会・壮年会それぞれ半分づつの合わせて50人強でした。加えて、4人の神父様方にも出席をお願いしました。昼からの懇親会には青年会の若い方々が6～7人参加してくれました。ありがとうございました。

吉村信夫先生の講演は2時間弱におよび含蓄ある言葉の数々を頂きました。資料のコピーも沢山いただきましたが、“ルカ福音書のイエスの言葉”ばかりを集めた資料は本日のお土産として頂きました。日本語で“聖体拝領”と翻訳された言葉の本来の意味の解説をお聞きし、私は恥ずかしながら今になって、それこそが分かち合いの原点であると認識した次第です。とても嬉しい瞬間でした。

六甲教会がこれからももっともっと素晴らしい教会になって行くようみんなで工夫、努力して参りましょう。
(川合)

吉村氏の講演



壮年会・婦人会合同懇親会に青年も加わって



📖 図書紹介

「イエズス会の世界戦略」

著 高橋裕史
講談社選書メチエ

宣教は霊性の現れである。同時に宣教は人類の社会の中の営みである。本書は宣教の実態を資料に基づいて、明らかにしようとしていると思われる。

宣教が人類社会の中で行われる限り、その時代、その場所との関わりを無視することはできない。イエズス会士たちはそれぞれ彼らの時代その社会の中で、国家権力や社会の風潮に翻弄されながら苦闘したのである。宣教の歴史は、ともすれば綺麗事として描かれるが、その現実には泥まみれ汗まみれの歴史である。後の世から見れば、愚かなあるいは誤った行動と見られる事実であっても、彼らは「よりよく達せしむるものを」選ぼうと苦慮し汗を流し時には血をも流したのである。

「イエズス会の歴史（ウィリアム・バンガート 原書房）」も同じ視点から是非通読すべきである。

これらの著作は、ただ一修道会の歴史に止まらない。現代の我々がどうあらねばならないかを、教えていると言える。

歴史に触れるときに、個々の事象を孤立したものとして見るのではなく、創造から終末に至る神の御業として見なければ、歴史の真を誤ることになる。
(ヨハネ三好)



みんなの広場

メルボルンの教会-その一

メルボルンは人口約 350 万、人種 100 カ国以上、移民の街とって良いでしょう。英語より中国語、ベトナム語、イタリア語が多く耳に入ってきます。観光者にとって多くの国の料理を食べる楽しみもあります。市内には 450 もの公園があって、別名ガーデンシティとも呼ばれている緑の多い都市です。

セント・パトリック大聖堂はオーストラリア最大の教会で、カトリックの総本山でもあります。比較的新しく 1939 年完成で、典型的なゴシック建築です。3 本の尖塔の高さは 100m 以上あります。高台に建っているため、街のどこからも良く見えます。クリスマスイブのミサは 11 時 30 分から約 2 時間の荘厳ミサです。パイプオルガンの演奏、合唱団の聖歌で非常に盛り上がった印象を受けました。

ただ、参列者は聖歌集を持たず当然誰も歌いません。何か大きな儀式を見ているように感じました。いつもの閑散としたミサに比べ、満席のクリスマス。万国共通の現象と見ました。



メルボルンの教会-その二

聖アウグスティン教会はメルボルンのダウンタウンの中心にあり、ビルの谷間に埋もれそうに立っています。日曜日は 10 時 30 分のミサが 1 回だけ。だからなのか、ほぼ満席でインドネシア、中国系の人たちが半数以上です。聖堂の外観はクリスマスケーキかと思うような可愛い建物ですが、内装は木造の落ち着いた雰囲気でした。神父はインドネシア人で、ミサ中かなり大きな声で、祈りのような呪文のような発声をし、徐々に信徒にも誘導していきます。信徒もつられて、手を広げて天を仰ぎながら唱えます。その時、“しまった。教会を間違えた。”と思ったくらいです。聖変化や聖体拝領の時になって、カトリック教会であると確信をしました。確かにフィリピン、インドネシアでも同様の光景に会ったことを思い出しました。祈り方にも国民性があるのでしょうか。特に、平和の挨拶では握手は勿論、抱擁、キスで非常に打ち解けた状態で、ミサの儀式の硬さから抜け、教会という家庭に知り合いが集まって来ているといった雰囲気です。私も、どれにしようか迷っているうちに、握手と抱擁が襲ってきました。さすが、キスはありませんでした。

(福田)



聖堂



ミサ後の聖堂前、神父は誰とも談笑

通夜・葬儀について

受付にいますといろいろなお問い合わせがあります。ミサ時間の問い合わせなどが多いのですが、通夜・葬儀についても多くのお問い合わせがあります。昨今は、ご高齢の方も多くなります。葬儀が増えることと思われます。いざというときに、「キリスト教のお葬儀はどうすればいいのか?」「教会はどのようにしてくれるのか?」とお困りの方が多いようです。

六甲教会では、ご遺族の意向に沿って洗礼を受けておられない方でもお葬儀を行っています。しかし、教会は葬儀や結婚式の会館(式場)ではありません。オルガニストや聖歌奉仕者をはじめ多くのボランティアに支えられて行われています。

また、カトリックにおける葬儀は「神父や司式者を呼んで祈ってもらう式」ではありません。「なくなった方とご縁のある方々が一緒に祈る時を持つ」ことです。葬儀は、故人を通して神様と直接向き合う良い機会といえましょう。とはいえ、ご遺体の搬送から役所への届けまで慣れないことが発生し忙しくなるのも事実です。

天国への旅立ち、生まれて来た時と同じように神様のみ旨です。家庭や人によっていろいろな事情があり一概に言えませんが、ご家族によって臨終洗礼を授けられるケースも増えています。いつかやってくる旅立ちのときの備えを、私達は元気なうちに準備する必要があります。

具体的な式次第や教会への連絡方法などは、教会のイグナチオホールにいつもパンフレットがありますのでご利用下さい。また、慌てないで前もって教会の受付に電話でご相談されることが便利かと思えます。

(親切をモットーの忙しい受付から)

教会報9月号の発行は、9月2日(日)です。 編集会議は8月26日(日)です。 記事原稿は、8月19日(日)正午までに信徒会館受付へ ご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 発行責任者 桜井彦孝 神父 編 集 広 報 部
---	---